

## 冬山合宿

今年の冬山合宿は当初計画した北アルプスへの入山はできなくなり、技術的（体力的）な面、日数的な面を考慮して3箇所の分散型となりました。

各隊ルート、期日、メンバー

- ・ 聖岳・東尾根 12/26～12/28 I, O, N, K
- ・ 甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳 12/26～12/30 Y, O, F, Y
- ・ 八ヶ岳・赤岳鉱泉定着 12/29～12/31 A, I

### 聖岳・東尾根

報告者：Y. I

期 日：2015 (H27) 年 12 月 26 日～28 日

メンバー：I, O, N, K

<コースタイム>

12/26：沼平 6：00－聖沢登山口 9：10－東尾根末端 9：40－ジャンクションピーク 15：15

12/27：ジャンクションピーク 4：30－白蓬ノ頭先 9：15－東聖岳 12：15－奥聖岳 13：45－前聖岳 14：15－白蓬ノ頭先テント場 16：50

12/28：白蓬ノ頭先テント場 7：10－尾根末端 11：10－聖沢登山口 12：00－沼平 15：15

数年前、Iさん、Hさんと3人で自転車を持って入山したが、雨で畑薙第1ダムで敗退した。いつか登りたいと思っていたが腰が重く果たせなかった。

2016年の冬山計画で北沢峠隊は早々と決めたが本隊が決まらない。そんな中、若手のI君が北沢峠以外に行きたいと私の耳に入ったのでこれは何とかしないと、重い腰を上げる事にした。秋に偵察を兼ねて東聖岳まで登り準備を整えた。

アプローチが14km以上と長いので荷物を15kg位にしたかったが、20kg以上になってしまった。25日夜9時に溝の口に集合して出発した。I号はカーナビも地図も無いので取りあえず前回と同じ新静岡まで行き、後は下道を標識を頼りに沼平を目指す。2時30分頃着いてテントで泊まる。

12月26日



5時に起きて6時に出発する。肩に荷物が食い込み重い。水力発電所辺りで1本入れて9時頃聖沢登山口に着いた。ここでアプローチシューズをデポして登山靴に履き替える。

計画では出会所小屋跡から直接ジャンクションピークを目指す予定だったが林道の周りに雪は無く、マークのありそうな末端の尾根に変更した。林道を樫島に30分ほど登ると黄色い矢印のマークが見つかり、登って行くと黒いプラスチックの階段が出てくる。ひたすらマークを追って登って行くと1800m位で雪が出てくる。これで今夜の水が確保できホッとした。15時を過ぎたのでテントを張り泊まった。

12月27日

全員わかんを履いて出発する。初めは膝下位の雪が2500mを越えると膝上のラッセルになった。白蓬ノ頭の先を左折して樹林帯を下った所にテントを張った。

天気は曇りだがまだ時間もあるので出発することにした。這い松の上に十分雪が乗っていないので歩きにくい。わかんアイゼンで登る事にした。ただOさんのアイゼンがわかんと相性が悪く、わかんを外して行くことにした。一人だけアイゼンのため苦労することになる。

途中トラバース部分で、K君が初冬山のため用心のロープを出したが、要らない位問題無かった。天気は快復に向かっていて赤石岳の方に晴れ間がさしてきた。その代り風が強くなって寒くなる。

3時間ぐらい登るとひととき大きな峰が出てきた。尾根が長く急で時間がかかる。ぬけるとそこは奥聖岳だった。強い風の中前聖岳に向かうが100mも行くと普通に歩けない。後ろにいたNさんに行きたいかと聞いたら、「どちらでも」と返事がきたが目が行きたいと訴えていた。前聖岳の200mが特に強く頂上を直ぐに後にした。

奥聖岳の下りは2pロープを使い下降した。後はひたすらテントを目指して17時前に着いた。テントに入ると体が冷え切っていたのでホッとする事ができた。

12月28日



ゆっくり起きて7時にわかんを付けて出発する。直前に単独の女性が現れてびっくりした。勇敢な女性だ。

ひたすら下降して行くと一昨日分からなかったジャンクションピークが見つかり、その下に泊まった事が分かった。1800mぐらいでわかんを外して林道まで下る。聖沢登山口でアプローチシューズに履き替えて林道を歩く。

途中聖沢のがけくずれ現場のがらがユンボで片づけられ、通れるようになっていた。行きも長く感じたが帰りはもっと長く感じ

る。途中一回休んで飽き飽きしたころゲートに着いた。

## 甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳

報告者：T.Y

期 日：2015 (H27) 年 12 月 26 日～30 日

メンバー：Y, O, F, Y

〈コースタイム〉

12/26：登戸 6：30＝戸台 10：15～10：45－丹溪山荘跡 13：30

12/27：丹溪山荘跡 7：25－北沢峠 9：55

12/28：北沢峠 6：00－仙水峠 7：10～7：15－駒津峰 8：25～8：50－甲斐駒ヶ岳 10：15～10：40－駒津峰 11：40～11：45－(双児山経由)－北沢峠 13：35

12/29：北沢峠 5：40－大滝頭 7：15～7：30－小仙丈ヶ岳 8：05～8：20－仙丈ヶ岳 9：20～9：45－大滝頭 10：50～11：00－北沢峠 11：55～13：00－丹溪山荘跡 14：45

12/30：丹溪山荘跡 7：00－戸台 9：00～9：30＝武蔵小杉 15：30



12月26日 晴れ時々曇り

夜の車の運転を避けるのと戸台付近での道路の凍結を考慮して登戸駅を6時30分に出発する。中央高速道路の渋滞が無く、心配していた戸台付近道路の凍結も無く予定より早く到着する。20～30台駐車していた。本日の行動計画では駐車場付近で幕営する予定だったので、食糧係のOさんは入山祝いを考慮し、重さは考慮しない夕食を計画し牡蠣鍋と天婦羅うどんであった。計画変更となってほとんど雪のない河原をお酒を含め重い荷を背負って歩き始める。

丹溪山荘近くで徒渉する為、10cm位の丸太を3～4本くりつけた簡易な橋を先頭の山本さんが渡ったが、橋の一部が凍って

いたためツルっと滑って全身びしょ濡れになるかと思ったが、反射神経の衰えの遅いYさんは瞬時にストックで体を支え、何とか橋の上でバランスを確保して難を逃れた。

2番手以降はそのすぐ上にある簡易な橋を渡った。このまま北沢峠まで行くと暗くなりそうだったので丹溪山荘の下に幕営する。廃屋となっている丹溪山荘だが泊まれないほど柱は朽てない様で、中を覗くと畳の部屋があるとのことだが、どんな寄生昆虫がいるかと思うと、とてもそこに泊まる気がしない。

その下のトイレ近くの平らな所にテントを張り、牡蠣、豆腐、白菜等が入った豪華な鍋と天婦羅うどんを、酒の入ったマグカ

ップを片手に昔の会社談議に花を咲かせながら美味しく第一夜を過ごしました。

12月27日 雪のち曇り一時晴れ

朝起きると雪がパラついているが、本日は早く北沢峠に着くからその後の行動を相談して「アサヨ峰でも行きましようか」と意見の一致を見て出発する。10時頃に北沢峠に到着して幕営の受付をした時、小屋の人から「水場に流れている水はそのまま飲めます。凍結した場合は川の水を煮沸してから飲んで下さい」と言われたものの、暖冬のためか我々が居た期間は凍結することはなかった。

テントを設営した時点で出発前に相談したアサヨ峰行きに関しては誰の口からも発せられることなく、リーダーの私も行く気がなくて「今日は明日からのため鋭気を養いましょう」と言ったところ、全員が直ぐに賛成してくれた。乾杯のビールを購入して夜7時過ぎまで話題が絶えることなくマグカップを片手に喋り続けカツ丼を食べて寝る。

12月28日 快晴

星空の中、出発する。しっかりしたトレースをヘッドランプの明かりを頼りに歩く。30分位で仙水小屋に着き小屋のそばの水を大変美味しく頂いた。まもなく露岩地帯を行くが上部は殆ど雪が無い状態で仙水峠に到着する。甲斐駒ヶ岳、摩利支天、鳳凰三山を観ることができる場所である。私は冬の甲斐駒ヶ岳が何十年ぶりの2回目と思

うが、何回か来ているOさんは「こんなに雪の少ないのは初めてだ」と言っていた。



そこからアイゼンを着けず樹林帯の急登をひたすら登る。Fさんが大幅に遅れて駒津峰に到着した。「待たせてすまん」といながら咳をしている。Fさんは「六方石の風のない所で待っているから3人で頂上へ行ってくれ」と言われたのでアイゼンを着けて向かう。

出発前にトラバースルートを通して頂上に行こうと決めていた。トレースは直登ルートの方がはっきりしている。トラバースルートを少し登ったところで2人でYさんを待っていたがなかなか現れない。谷口けいさんの事が頭によぎり、滑ったのではと私が言うとOさんは直登ルートに入ったんじゃないかと言う。直登ルートを見ると上下薄い紫色の目立つヤッケを着た単独者が登っているではないか。コールを掛けると向こうも気づいて頂上で会おうということになった。

風もない絶好の天候のなか、頂上に向かってゆっくり快適に登って行く。10時15分に頂上に到着し、360度の景色を堪能する。頂上には数人の登山者がいたが何人かは知らず知らず直登ルートに来た人達がい

た。下山ルートを心配している人がいたが、「下山は直登よりトラバースルートの方が簡単です」と言うのと安堵していた。写真を撮り終わるとFさんが待っている駒津峰に降りる。そこで小休止して双児山に向かう。双児山でアイゼンを外して下山する。

北沢峠では登頂祝いという事で生ビールで乾杯しテントに戻って肉野菜炒めライスを美味しく頂きながら酒盛りとなったが、風邪で調子悪いFさんも風邪に関係なく他の人と同じように酒盛りしている。本当に大丈夫なのだろうか心配して就寝する。

12月29日 曇りのち晴れ

天気予報では、午前中は良い天気と聞いていたが、夜中の強い風で下山しなければならぬのだろうかと思ったが、起きる頃には曇っていたが強い風も収まったので出発する。

昨日の甲斐駒ヶ岳とは違い北東面方向に登るため雪のトレースがついているがアイゼンなしで登る。2ピッチで5合目の大滝ノ頭に到着してアイゼンを装着する。そこから強い風を受けるようになり、安易に考えていた私は急遽目出帽を着けヤッケでの防風対策を講じてから再出発する。

昨日風邪で調子の悪かったFさんは調子を取り戻したように歩いている。昨日の方法で風邪を治す藤本(登)流は、他の人の治療法としては甚だ疑問符が付く。私は絶対マネはしないだろう、でなく出来ないだろう。(実はアミノバイタルを2袋ずつ飲んでいたのでした・・・F談)

小仙丈ヶ岳に近づくにつれ、ガスった場合迷い易い場所がでてきたのでYさんが用意した赤布竿を置いていく。小仙丈ヶ岳は風も強くとてもザックを下ろして飲み食いする余裕が無く、全員が集まった時点で出発する。ここからの風は大変強く立ち停まる事もあった。前を歩いていたパーティは耐風姿勢をとった時もある。私は、顔に軽い凍傷をしてしまった。風が冷たいと肌を感じながら登り途中で急に感じなくなりヤバいなと思ったがどうする事も出来ずそのまま歩いた結果である。強い風の中全員が登頂でき記念撮影をして早々に下山する。相変わらず強い風が吹いているので一気に5合目の大滝ノ頭まで降りる。そこでやっとゆっくり休憩して水分・行動食を口にして北沢峠へと下山する。

ここで登頂祝いの生ビールを飲みたいところだが明日の行動を考えて疲れている体にもうひと踏ん張りと言いついて聞かせてテントを撤収して重くなった荷物を背負って丹溪山荘に向かう。丹溪山荘の下にテントを設営した時はホッとした。北沢峠で買ったビールで乾杯し、玉ねぎ、ニンジン、ジャガイモを使ってのカレー及び残りの食材(しめ鯖など)を美味しく頂きながら打ち上げるも歳には勝てず19時前に就寝する。

12月30日 快晴



帰りの大きな楽しみである温泉の日帰り入浴ができる仙流荘は駐車場から10～15分位なので出発を7時30分から8時にしようとして昨日寝る前に言ったが、今朝5時前に0さんから「もう、起きないか。腰が痛いよ。」との声で全員がサッと起き上がり、いつものようにサッと朝食の準備をする。朝食後にコーヒーを飲むなど(私は今迄合宿で朝にコーヒーを飲んだ記憶はありません)ゆっくり下山準備をして戸台まで降り、温泉に入って明るいうちに川崎に到着した。

戸台までの間すれ違う入山者は50人近くいたと思う。老若男女様々であったが、我々ほどのロートルパーティはいなかったのではなかろうか。